

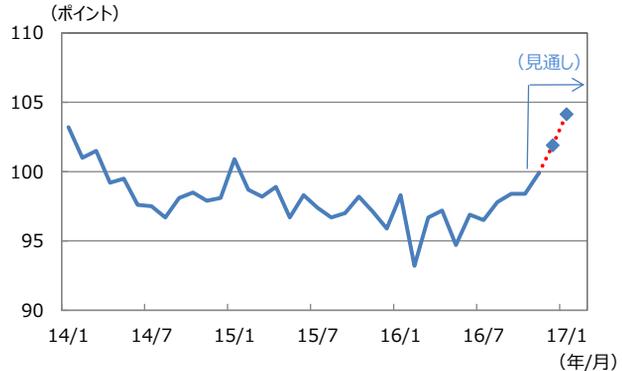
今日のトピック 最近の指標から見る日本経済（2017年1月）

海外景気や経済対策に支えられ、回復傾向が続く

ポイント1 生産は持ち直しの動き 先行きも増加する見通し

- 16年11月の鉱工業生産指数は、前月を1.5%上回りました。経済産業省は基調判断を「持ち直しの動き」に上方修正しました。中国景気の安定、米景気の回復、グローバルなITサイクルの回復が続く中で、日本から海外への輸出は増加しており、生産の持ち直しに寄与しています。
- 製造工業生産予測調査によると、12月は2.0%、17年1月は2.2%と、それぞれ上昇が予想されており、先行きも増加傾向が続くと見られます。

【鉱工業生産指数】



(注) データは2014年1月～2017年1月。2016年12月以降は予測値。
鉱工業生産指数は“2010年=100、季節調整済み”。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 消費者物価のマイナス続く 原油高要因を除くと物価の基調は弱い

- 16年11月の消費者物価指数（生鮮食品を除く、以下コア）は前年比 ▲0.4%と、市場予想（▲0.3%）を下回り、前月と同じマイナス幅にとどまりました。エネルギーのマイナスが引続き縮小（10月 ▲7.9%→11月 ▲6.7%）しましたが、それ以外の通信、教養娯楽、被服及び履物などで伸びが鈍化ないしマイナスが拡大しました。企業の価格設定行動は依然として慎重で、原油高要因を除くと物価の基調は弱い状態が継続しています。

【消費者物価コア指数（前年比）】



(注) データは2011年1月～2016年11月。
消費者物価コア指数は消費者物価指数（生鮮食品除く）。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 海外景気や経済対策に支えられ、回復傾向が続く見込み

- 年末から年明けにかけて公表された経済指標は、概ね10-12月期の景気回復の継続を確認する結果となりました。景気は16年7-9月期に持ち直しに転じており、海外景気の回復や政府の経済対策による下支えから、振れを伴いつつも回復傾向が続くと見られます。物価については、潜在成長力を上回る景気回復となることから、17年後半にかけて消費者物価コア指数は前年比1%程度まで伸び率が高まると見られます。

ここもチェック! 2017年 1月18日 「さくらレポート」は3地域で判断引き上げ（日本）
2017年 1月16日 「街角景気」は半年ぶりに改善一服（日本）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。